

リフレッシュ滋賀

第5号

連合滋賀・高退協会報

発行責任者: 吉村眞明

編集責任者: 嶋澤順三

大津市松本2-10-6
電話: 077-523-0500

「滋賀県高齢者集会」

九月二十四日(木)に開催

連合滋賀・高退協では、七月二十八日、連合福祉会館で三役会議を開催し、当面の懸案事項について、審議しました。

出席者は、吉村会長、嶋澤・奥村両副会長、北村事務局長、川上幹事。

滋賀県高齢者集会是連合滋賀・高退協の全会員を対象にした集会でありますだけに、会員に喜んで頂ける会にするべく三役で真剣に検討し、左記により実施することに決定しました。

滋賀県高齢者集会

①日時 九月二十四日(木)

九・三〇～二二・〇〇

②場所 つがやま荘

JR守山駅下車三分

TEL 〇七七・五八三・七二八

③講演 比叡山飯室谷不動堂

大阿闍梨 酒井雄哉師

(プロフィールをご参照下さい)

④演題 「比叡の山に生かされて」

●多数のご来聴をお待ちします。



大阿闍梨 酒井雄哉師 プロフィール

天台宗延暦寺には、多くの厳しい修業の定めがある。その中でも最も厳しい行が「千日回峰行」である。酒井雄哉師はこの千日回峰行を続けて二回も満行された大阿闍梨で、今も比叡山飯室谷不動堂で、行に徹した日々を送っておられる。大阿闍梨酒井雄哉師の清澄で強靱な意思と行動の源は何か。より多くの会員に聴講頂きたく、プロフィールの一端をご紹介します(以下酒井師と略称させて頂く)。

- ▽大正一五年九月五日、大阪玉造で、父岩吉・母ミカの長男として出生。
- ▽本名忠雄(姉一人、弟五人、妹三人の一〇人兄弟の長男)。
- ▽五歳の時、父が米相場に失敗、家族と共に東京へ出る。
- ▽昭和一九年予科練に入隊(熊本県人吉)、やがて鹿児島県鹿屋飛行隊に移り、多くの特攻隊員を戦場に見送る。
- ▽昭和二十年八月終戦。復員後、職を転々とする。法大図書館勤務、そば屋、株屋、菓子屋のセールスマン等。
- ▽三十歳すぎに伯母の娘と結婚。しかし程なく妻が自殺。原因不明、懊悩と悲しみの日々が続く、笑いを忘れた男となる。
- ▽昭和三五年秋、見兼ねた亡妻の母親に誘われて比叡山無動寺谷弁天堂に参詣、初めて叡山の土を踏む。やがて、参詣が重なるうちに、残りの人生を比叡の山にゆだねようと思える。
- ▽三八歳の時、その弁天堂で輪番を勤める小林隆彰師に出会い、修法に入る。
- ▽昭和四十年十二月十七日、小林師を戒師として得度、天台宗の僧・酒井雄哉として入籍。この時満四十歳。
- ▽さらに、叡山学院で天台の学理を学び昭和四十七年叡山学院研究科卒業。以後、行を重ね、いよいよ千日回峰を決意。
- ▽昭和五十年四月、千日回峰行出発。満四九歳。昭和五三年一月堂入り満行、昭和五四年七月赤山苦行満行、昭和五五年七月京都大回り満行。
- ▽昭和五五年一〇月、遂に、千日回峰行満行。満五五歳で大行満大阿闍梨。
- ▽昭和五六年三月、続いて、二千日回峰決意、一千一日出峰。満五五歳。
- ▽昭和六二年七月、北嶺回峰二千日満行。

この時、酒井師は満六一歳であった。▽その後も巡礼の行を重ねられ、その足跡は、平成五年、中国五台山巡礼、同年、九州六郷満山峯入り行、平成六年、山陰・山陽巡礼、平成八年、中国五台山巡礼、と衰えを知らぬ行を続けておられる。

この間、

▽平成七年三月、仏教伝導功労賞受賞

▽平成七年六月、ヴァチカンにてローマ教皇ヨハネ・パウロ二世に謁見。

▽平成九年七月、満七一歳。この年、葛川明王院へ参籠二五度。大大先達・総一和尚となる。

酒井師は天台宗一二〇〇年の歴史の中でも、数えるほどしかない、①二千日回峰行、②中国五台山巡礼、③葛川明王院参籠二五度、の総てを実行された希有の高僧である。

当選御礼

滋賀県知事

国松善次



浅学非才を顧みず、ただ夢中で闘いました知事選挙では、連合滋賀をはじめ多くの皆様のご支援のお陰をもって当選させていただきました。ここに心よりお礼申し上げます。

これからは初心を忘れず県民の福祉向上に努力して参りますので、今後とものご支援をお願い致します。



フルムーン かんぽの宿めぐり

吉村 眞明

「同窓会を計画しました。是非ご出席下さい。」

宮崎県・諸塚尋常高等小学校 昭和一
六年卒業生への案内状が届いた。

六年前、三年前にも案内状を受けたが、
参院選で出席できなかった。

今回は断る理由もない。しかし乍ら卒業以来五十七年の歳月が流れ、まして高等科二年だけ在籍した者としては名前も思い出せず、顔は記憶の中に全くない。躊躇逡巡しているところへ、「会いたい。待っているから必ず出席しろ」と三人からの電話。迷っている場合ではないと決断する。

有難いことに、昨年の叙勲祝賀会で皆さんに頂戴したクーパーの残りがあつた。九州フルムーンを思い立った。

初日は新大阪発七時、博多行きひかりに乗車。うつらうつらしているうちに小倉のアナウンス、日豊線にちりんに乗る。かえる。

左手に別府・津久見の海岸の眺めを楽しみ、豊後・日向の国境の山中を走ることしばし、延岡市街が飛び込んでくる。延岡のはずれ土々呂の町は連合の結成に心血を傾注し、土台を築きあげられた、今は亡き山田精吾さんの生地、胸の中で手を合わせ感慨を深くしていると、もうそこは目的地日向市駅。改札を出て見る

と、駅前の竹まいは昔と殆ど変わらず、発展のテンポの緩やかさを感じるが、なつかしさは一人。

会場である「かんぽの宿日向」は高台にあり、日向灘が一望でき、打ち寄せる白波の輝きがまぶしい。

蛤は今も取れるのだろうか？

今浦島の心境でロビーに入ると、案ずるより生むが易し。昔仲良く遊んでくれた友がかけ寄ってきてくれ、よく来たとか皆に引合わせ、大歓迎をうけ、楽々と仲間に加わることができた。

集まった者三十名、その夜の宴会は盛大で、童心に帰って昔話に花が咲き、忘れていた方言も次々と思ひ出し、楽しく、感激の一夜であった。

二日目は、「元気で長生きして、また来いよ」と皆に見送られ、宿を後にする。

親戚の家を三軒訪ね、延岡から別府へ、別府駅からバスで今宵の宿「かんぽの宿別府」へ着く。建物は大きく、長期滞在棟も併設され、百万人達成ありがとうの看板が玄関を飾る。

名物城下かれいのうす造りは絶品。三日目は別府、小倉、博多と乗りつぎ、博多から佐世保線に乗りかえる。

フルムーン券は本当に便利だ。どこの駅でもすぐにグリーン指定券がもらえる。

吉野ヶ里駅を通過有田駅到着、杉浦鉄

道に乗りかえて伊万里をめざす。

杉浦鉄道は一両のみのワンマン車

市中の目抜き通りには、伊万里焼が工夫を凝らしている処に飾られている。

散策すること一時間、有田に引返す。

二八年程前の事になるが、鳩の浜荘の支配人であった故堀田正雄さんに依頼され、陶器の買付けに同行したことを思い出しながら街に出たが、記憶の中の街並みとは全く違う。記憶があいまいなのか、街が変わったのか、自問自答しながら歩いていると、卸売団地の方向を示す看板が目についた。

街も変わったのだと思い、蒸し暑い中を汗をふきふき丘の上の団地に。

広い道をはさんで両側に立派な店が立ち並んでいる。

家内は今回の旅行で有田に立寄ることを楽しみにしている。

気に入った骨董を探すためである。

晩年になると死を正面から見据えなければ仕方がない。

こし方を省みて、多くの人々に温かく支えられての一生は、感謝、感謝である。その時が来たら有難うと手を合わせて旅立つ心の準備はできている。

生きて多くの人にお世話になったので、

死出の旅路は人に迷惑をかけず、静かに去っていくと二人で決めている、娘もその旨を承諾している。

しかし、せめて骨董だけは、自分の気に入ったものを用意したいと家内は願っている。多くの店の中を探したが見当らず、空しく引返し、武雄温泉駅へ。

今夜の泊りは「かんぽの宿武雄」

鍋島藩の出城の跡だそうで、小さな山の頂上を切り拓いたところにあり、三六〇度見渡せる眺望抜群の場所。

近郷近在の家族連れや会社のグループとおぼしき客で一杯。

四日目は諫早經由島原へ、諫早で島原鉄道に乗りかえる頃、雨が激しく降ってきた。梅雨だというのに、この旅行中初めて遭う雨である。干拓地かと思わせる広々とした水田の中を抜け、海岸線走り島原駅へ。

改札口を出ると眼前に島原城の天守閣が威風堂々とそびえ立つ。

雨はあがり、強烈な日射しが遠慮なく降り注ぎ、湿度は高く全身から汗がほとばしる心地がする。

観光案内図を頼りに雨傘を日傘に代用、武家屋敷をめぐり、空堀を渡り天守閣の中へ、ギリシタンの展示物を見るのもそこそこに展望台で涼をとる。鯉の泳ぐ町を楽しみ、水の湧き出る池のある水屋敷の縁に腰をおろす。

湧き水を眺めながらの白玉ダangoの味は格別、思わずもう一杯。

島原外港からだらだら坂を登ると「かんぽの宿島原」、見晴らし良好。

五日目は島原外港から「四月から就航」という熊本フェリーで熊本港へ、鹿児島本線、新幹線ともグリーン車はがら空きで借り切った気分京都駅へ。

帰宅すると孫二人が抱きついてくる。これが老いの楽しみ。早く大きくなれよ！いや、ゆっくり大きくなれよ！人間とは勝手なものである。

日向、別府、武雄、島原と「かんぽの宿」をめぐるってきたが、どこも設備は良く、応対は親切、料理も文句なく、何より安く泊まれるのが嬉しい。

お奨めの宿である・・・。

(連合滋賀高退協・会長)

明るい高齢社会をつくるための近畿ブロック研修会

ラボール京都で開催 連合滋賀・高退協から一九名参加

連合近プロ高退会（連合近畿地方ブロック高齢・退職者連絡会）が毎年開催している「近畿ブロック研修会」は、今年は京都市での開催となり七月二十四日ラボール京都（京都労働者総合会館）で開催された。連合滋賀・高退協からは、役員七名のほか各組合OB会から一二名の会員が出席。会場には二三四名の出席があり、盛会のうちに研修会は終了した。

研修会次第と講演要旨

一、開会の挨拶

近プロ高退会幹事 西村 龍蔵

二、挨拶

近プロ高退会代表幹事 花房 信夫
連合京都会長 片山才一郎

三、講演

(1) 年金意識の調査結果と年金改革に向けての連合方針

連合副事務局長

野口 敏也氏

「公的年金制度の見直しは平成一一年に迫っており、昨年末厚生省は『五つの選択肢』を発表し、世論の関心を高める手をうった。しかし、公的年金制度は福祉社会の基盤をなす社会保障制度の重要な構成部分であるため、討議は不十分であり、連合は次の諸点を基本として来年の年金制度に取り組む。

- ① 公的年金は、老後の生計費の基本部分を保障するに足る水準を確保すること
- ② 現役労働者の賃金水準と老齢年金受給者の年金水準との適正なバランスを維持すること

③ 六〇歳代前半の雇用と年金受給開始との柔軟な接続を確保すること

④ 世代間の支え合いを基本とした財政方式を維持すること

⑤ 将来世代の負担を可能な限り抑制すること

⑥ 国民皆年金の精神に立ち、無年金者の発生を防ぐこと

⑦ 社会保険のもつ所得再配分機能を維持・強化すること

(2) 受給者の立場から見た年金改革

日本高齢・退職者団体連合会会長

西田 八郎氏

「日本高退連の基本的な立場は九・一五集会所に提案する政府要求即ち現状維持と無職受給者への特別配慮及び標準報酬月額の見直しである。しかし、財政的な可能性は政府見通しが大変難しいことから、①徹底した行政改革の実施と地方分権の徹底、②高額受給者への支給制限、③少子化対策の充実、等実現の可能性のあるところから取り組んでいきたい。

一方、高齢者の雇用対策の見直しや受給者自身の側にも退職後の生活の見直し相互扶助運動の展開（ボランティア活動）等、意識改革が必要となろう。」

以上について質疑討論が進められた。

四、連帯の挨拶

参議院議員

福山 哲郎氏

(省 略)

五、閉会のことば

以上、拍手の内に研修会は終了した。

イベント情報

連合滋賀では、昨年に引き続き第二回囲碁・将棋大会を九月一日に開催することとしています。日頃の腕試しに参加しませんか？

第二回連合滋賀囲碁・将棋大会

■とき 九月一日（土）

午前九時三〇分より

■ところ 共済会館 びわこ

■参加費 無料（昼食は連合滋賀で用意）

■参加対象 連合滋賀組合員および退職者

■参加申込

◇現役組織の各組合事務局から各構成組織を通して申し込んでください。

九八・九・一五 全国高齢者集会

日本高退連主催の「九・一五全国高齢者集会」は、今年も「東京国際フォーラム」で九月一日（火）午後一時より開催される。

本年は、従前と異なり、年金・医療等制度問題が、退職者・高齢者の願いとかけはなれた制度に変わるかどうかの重大な岐路に立つ政治的時期を迎えるだけに、要求課題も基本的には「年金・医療・介護」に絞り込んで取り組むこととしており、集会当日の午前中には、①介護問題について二〇〇名規模のシンポジウム、②年金のあり方について一〇〇名規模の講演会形式の会議が開催される。

開催内容は次の通りである。

◇各ランク先着二名とします。

◇原則として、構成組織あたり、各ランク二人までとしていますので、調整させていただく場合があります。

大会要項

◆ランク

A級（三段以上）

B級（二段・初段）

C級（級位）

◆囲碁、将棋とも個人戦で、ハンディーなしのトーナメント戦を基本とします。

◆各ランク優勝、準優勝、三位に盾と賞状をおくりします。

※問い合わせは、連合滋賀松井、川上までお願いします。

電話〇七七一五三一〇五〇〇

オープニング

太鼓演奏（江戸川保育園社中）

第一部・集会

①主催者代表あいさつ

②基調報告

③特別決議

④集会アピール

第二部・アトラクション

①津軽三味線・山内兼王社中

②ルーク&むう

③金沢明子ショー

第三部・お楽しみ抽選会

なお、当日午前一〇時～一二時に、①介護問題について、②年金のあり方についてのシンポジウムが開催される。

●メインスローガン

安心して暮らしていける

社会保障制度を確立しよう

組織紹介

ゼンセン同盟OB友の会滋賀県支部

(ゼンセン高齢労働福祉財団)

ゼンセン同盟(前組織名…全職同盟)

OB友の会は昭和四一年二月二六日、「全職同盟と退職者組合員との連携を深めるとともに、会員相互の親睦を深め、相互扶助をはかる」ことを目的に全国組織として結成されました。

現在会員数は普通会員・終身会員合計二六、四五八名を数え、全国四七都道府県

に支部を設置しております。

その内滋賀県支部は二、四九〇名で、顧問二名、支部長、副支部長2名、事務局長(専従)、幹事一五名で運営をしております。

加入資格は年齢六九歳までの人で、組合員在籍期間一〇年以上で退職若しくは非組合員になった人を対象とし、会費は普通会員一、五〇〇円(毎年会費を納める方式)、終身会員一八、〇〇〇円(一括納入方式・六〇歳以下は年齢に応じて若干高くなる)納入します。

会員へは①祝金・見舞金贈呈②見舞金共済③ゼンセン新聞送付④友の会が主催する行事への参加・法律相談等の制度が適用されます。

また、昭和六〇年九月には労働大臣の認可を受け、「財団法人ゼンセン高齢労働者福祉財団」を発足させ、高齢労働者の調査研究、生活指導、再就職等の指導相談、高齢福祉共済事業その他福利厚生など、福祉の増進を目的に事業を展開し大きな活動成果を挙げてきました。

滋賀県支部の主たる活動を紹介しますと、年一回の定期総会、年数回の幹事会、研修会、親睦旅行などを実施しています。また今年はゼンセン滋賀が結成五〇周年を迎えたことから、OB友の会もこの記念行事として、現役組合員とともに親睦ツアーを企画している最中でありま

①祝金・見舞金

種類	適用区分	金額
長寿祝金	77歳、88歳、99歳	各 10,000円
見舞金Ⅰ	50歳以上の会員でねたきりや痴呆症などのため在宅で介護を受けているとき	毎年 40,000円
見舞金Ⅱ	50歳以上の会員でねたきりや痴呆症などのため入院、入所中のとき	毎年 20,000円
見舞金Ⅲ	会員がねたきりや痴呆症などの同居家族(50歳以上)を在宅で常時介護しているとき	毎年 20,000円

※祝金、見舞金は重複して受けることはできない

②見舞金共済

給付適用区分			給付金額
会 員 死 亡			60,000円
住宅被災	会員が居住している住宅	全焼・流出・全損	50,000円
		半焼・半損・ 床上浸水	25,000円
	配偶者死亡（事実上の婚姻関係含む）		25,000円

編集後記

連合滋賀・高退協では七月二八日三役会議で「滋賀県高齢者集会」の計画を纏めました。一頁にその詳細を掲載いたしました。今回は比叡山飯室谷不動堂の大阿闍梨酒井雄哉師をお招きすることができました。プロフィールでもご紹介した通り、仏道の希有な実践者として世界的にも高い尊崇を得ておられる仏教者であります。県内にこのような方がお住まいであることは滋賀県人としておおいに喧伝してよいことではないでしょうか。信仰の如何にかかわらず、多くの方々に聴講をお薦めいただきたいものです。

七月一二日の参院選で自民党が大敗し、小渕新内閣が誕生しました。景気の立直し、海外の信頼の回復、高齢者の福祉対策等、日本の将来を占う問題山積です。政治家の癒着腐敗にうんざりでも、政治から目を逸らすことは許されないうでしょう。しっかりと行方を見定めましょう。

●訂正のお知らせとお詫び

第四号で左記の箇所に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

二頁下段右より五・七行

誤 おい痛め酌みかはそうぜ秋の酒

正 八月八日 癌告知から一八七日間文字

通り死闘を続け、八月十日江國滋氏は

正 おい痛め酌みかはそうぜ秋の酒 八月八日

癌告知から一八七日間文字通り死闘を続け、

八月十日江國滋氏は

投稿歓迎!

会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。原稿は左記までご送付ください。

〒520-0807 大津市松本2丁目10-6

連合福祉会館内